

ニギス

*Glossanodon semifasciatus*

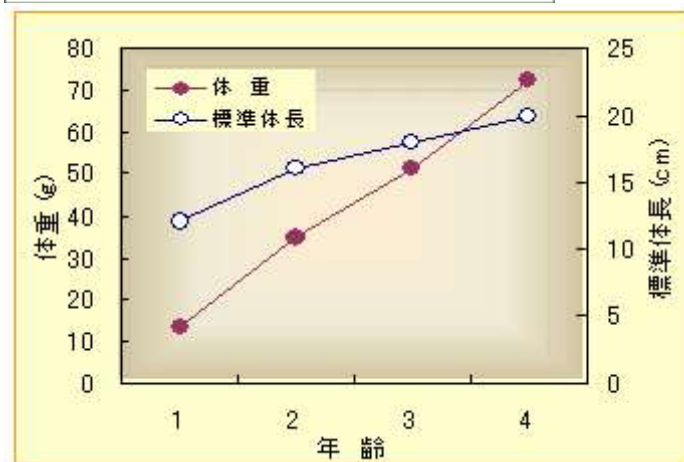
日本海系群

担当：日本海区水産研究所



## 生物学的特性

|          |                                  |
|----------|----------------------------------|
| 寿命：      | 5歳                               |
| 成熟開始年齢：  | 1.5歳                             |
| 産卵期・産卵場： | 1年を通して産卵するが、産卵のピークは春と秋<br>産卵場は不明 |
| 索餌期・索餌場： | 1年を通して、水深100～200mで索餌             |
| 食性：      | オキアミなどの浮遊性小型甲殻類が主な餌              |
| 捕食者：     | 不明                               |

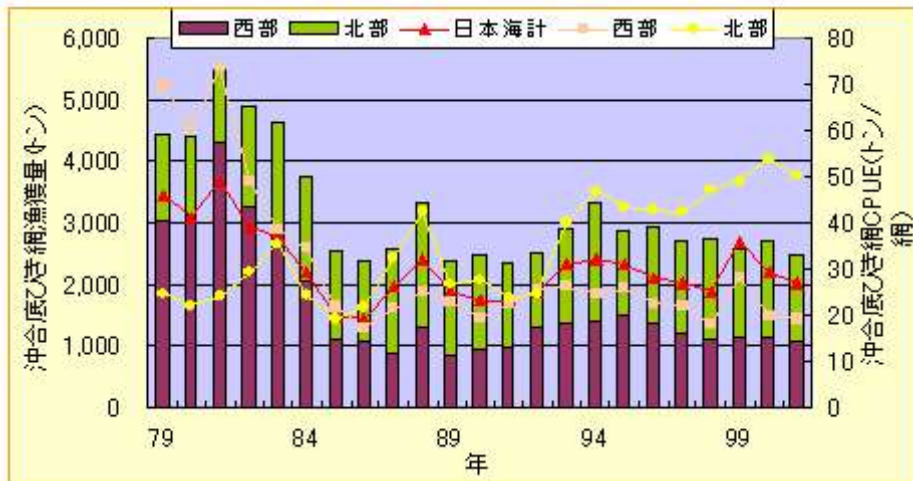
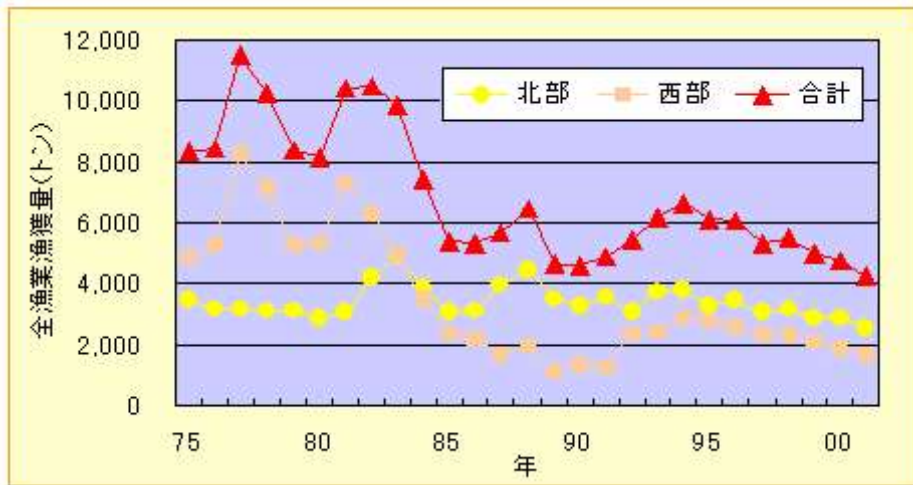


## 漁業の特徴

主な漁場は青森県から島根県にかけての日本海沿岸と、愛知県および高知県沿岸の太平洋岸であるが、日本の漁獲量の7～8割が日本海沿岸で水揚げされている。本州沖合の日本海において、本種は水深100～200mにかけて分布しており、主として沖合底びき網、小型底びき網で漁獲されている。

## 漁獲の動向

漁獲量の推移をみると、1975年以降では1977年の11,463トンピークに、1983年までは8,000～12,000トンの範囲で変動していたが、1984年以降減少し、1989～1991年には5,000トン以下にまで落ち込んだ。1992年以降はやや増加し5,000～6,000トンで推移していたが、近年（1997～2001年）は漸減傾向が見られ、2001年は4,261トンであった。

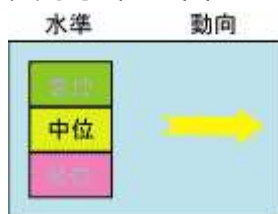


## 資源評価法

沖合底びき網漁業漁獲成績報告書に基づき、日本海北部（石川県加賀沖以北）と日本海西部（福井県若狭沖以西）および日本海全体の沖合底びき網による漁獲量とCPUE（kg/網）の推移(1979～2001年)から資源評価を行った。

## 資源状態

日本海西部では沖合底びき網（1そうびき）のCPUE（kg/網）が若干低い値となっているが、過去15年の増減の範囲内にあり、今後急速に資源状態が悪化することはないと考える。日本海北部では沖合底びき網（1そうびき）の漁獲量、CPUEともに良好な値を示しており、資源状態は安定していると考えられる。日本海全体では沖合底びき網（1そうびき）の漁獲量、CPUEともに最近15年間では安定して推移しているため、資源状態は安定していると判断した。CPUEが良好であった1980年代前半を高位とすると、現在の資源水準は中位、動向は横ばいと判断した。



## 管理方策

日本海全体では、沖合底びき網（1そうびき）のCPUE（kg/網）は最近15年間では安定して推移しているため、資源状態は中位で安定している。しかし、近年CPUEに比べ漁獲量が低下しているため、漁獲努力量は低く抑えられていると考え、漁獲圧は現状を維持しても良いと判断した。そこで、過去3年間(1999～2001年)の平均漁獲量をABClimitとした。また、最近年で最も少ない2001年の漁獲量と同じ4,200トンとなるように係数をかけてABCtargetとした。

また、小型魚の投棄を減らすことも重要である。

|              | 管理基準          | A B C（トン） | 漁獲割合 | F 値 |
|--------------|---------------|-----------|------|-----|
| A B C limit  | Cave-3yr      | 4,700     | －    | －   |
| A B C target | 0.9 ABC limit | 4,200     | －    | －   |

## 資源評価のまとめ

- 日本海全体では、沖合底びき網（1そうびき）のCPUE（kg/網）は最近15年間では安定して推移している
- 資源水準は中位で、動向は横ばいである
- 近年の漁獲量の低下は、漁獲努力量の減少によると考えられる

## 管理方策のまとめ

- 管理目標は漁獲圧を現状で維持すること
- 小型魚の投棄を減らすことも重要